

警防業務の概要

1 警防業務の概要

警防業務は、火災出動や救急救助出動はもとより、多種多様な災害から住民の生命、身体及び財産を守るため活動を行うことを任務としている。

このため、職員は、日々の訓練はもとより高度な技術を修得し、あらゆる災害に対処している。

令和5年度の火災出動等の主な出動状況は次表のとおりで、救急出場件数が全体の約94.1%を占めている。

令和5年度出動件数		
区分	件数	前年度比較
救急	1,096 件	20 件増
調査	33 件	15 件増
火災	10 件	2 件増
危害排除	9 件	7 件増
救助	5 件	1 件減
遭難	4 件	3 件増
特別警戒	8 件	3 件減
自然災害	0 件	増減なし

2 救急救命士と高規格救急自動車

救命率の向上を図るため、平成11年4月から救急救命士と高規格救急自動車が一体となった高度化救急業務を実施している。

救急救命士は、医師の具体的な指示を受けて心肺機能停止状態の傷病者に器具を用いた気道確保、乳酸リンゲル液を使用しての静脈路確保及びアドレナリン投与等高度な救命処置を行うことができる。平成26年9月からは拡大2行為として、いずれも心肺機能停止前の重症傷病者に対する静脈路確保、輸液、血糖測定及びブドウ糖溶液投与の運用を開始している。このため、高規格救急自動車には、高度な救命処置資器材などが装備されている。

また、救急救命士の資質、技量の維持、向上を図るため、年24時間の病院実習や救急症例検討会等の救急救命士再教育を行っている。

なお、令和5年度末現在で、13人の救急救命士が救急業務に従事している。

3 消防訓練等の指導と防火講習会

消防署では、学校や旅館・ホテル等に対して初期消火訓練や避難訓練の指導のほか、地域住民に対して天ぷら油火災の消火実験や消火器具の取扱い方法など火災を未然に防止するための防火講習会、各小中学校を対象に土砂災害、地震、津波についての防災講習会、いざというときのための救急法の講習会を開催している。

令和5年度の取扱件数は、次表のとおりです。

区分	対象施設・講習区分		取扱件数	従事職員数	参加人数
訓練指導	保育所、小・中学校		13 件	40 人	1,183 人
	旅館・ホテル等		10 件	59 人	154 人
	病院、福祉施設等		23 件	87 人	482 人
	その他		8 件	37 人	127 人
	計		54 件	223 人	1,946 人
講習会	防火・防災講習会		4 件	13 人	149 人
	救命講習会	上級救命講習※1	1 件	6 人	12 人
		普通救命講習※2	5 件	11 人	48 人
		基礎救命講習※3	29 件	51 人	773 人
	計		39 件	81 人	982 人
合計			93 件	304 人	2,928 人

※1 上級救命講習とは、講習時間が8時間以上で、修了証が交付されるものをいう。

※2 普通救命講習とは、講習時間が3時間以上で、修了証が交付されるものをいう。

※3 基礎救命講習とは、普通救命講習に至らない講習をいう。

4 消防庁舎等の見学

令和5年度に消防庁舎、消防車両の見学に訪れた保育所、小学校は、次表のとおりです。

また、平成11年度からは、中学生、高校生による職場体験学習も行われています。

区分	団体	件数	人員	備考
消防庁舎見学	小学校	6 件	161 人	市野々・太田・色川小学校合同 宇久井小学校、勝浦小学校、下里小学校 太地小学校、みくまの支援学校
	その他	2 件	16 人	那智勝浦ロータリークラブ J Aみくまの女性会
職場体験学習	中学校	1 件	5 人	那智・色川中学校合同
合計		9 件	182 人	

5 独居老人訪問指導

令和5年版消防白書によると、住宅火災における死者（放火自殺者等以外）のうち、65歳以上の高齢者が全体の75.2%となっており、今後の高齢社会の進展とともに、住宅火災による死者が急増することが懸念されている。

那智勝浦町消防本部、消防団では、高齢者の一人暮らしを対象に防火点検など住宅訪問指導を行っている。

この独居老人訪問指導は、昭和62年から実施している。

年度	対象数	訪問数	年度	対象数	訪問数
平成26年度	1,667	896	令和元年度	1,480	765
平成27年度	1,627	922	令和2年度	1,428	733
平成28年度	1,593	835	令和3年度	1,352	695
平成29年度	1,547	759	令和4年度	1,292	604
平成30年度	1,538	814	令和5年度	1,219	656

※昭和62年度～平成21年度までは、65歳以上が対象。平成22年度からは、毎年年齢を1歳ずつ引上げ、令和5年度は、79歳以上を対象とする。

消防水利関係

主な消防水利の設置状況

地 区	水利合計		消火栓						貯水槽				簡 易 防 火 水 槽	指定水利			その他
			様式別		口径別				貯水量別			うち耐震性貯水槽		プ ー ル	池	河 川	
			地下式	地上式	150ミリ未満	150ミリ	150ミリ超	40トン未満	40トン	40トン超							
勝 浦	81	75	74	1	40	35		5		5		1		1			
那 智	295	255	247	8	166	33	56	19	1	17	1	4	7	1	2	2	9
宇久井	141	114	108	6	107	7		14	1	13		1	12	1			
色 川	25							1		1		1	23				1
下 里	109	99	94	5	78	21		8	1	7		3	2				
太 田	83	68	67	1	46	10	12	6	1	5			8			1	
計	734	611	590	21	437	106	68	53	4	48	1	10	52	3	2	3	10

※ 簡易防火水槽は、町独自の設置

※ 指定水利

- | | | |
|----------|------------------|---------------|
| 1 小学校プール | 勝浦・市野々・宇久井各小学校 | 内容量は各々約 500 t |
| 2 池 | 湯川地内橋の川奥・那智高原公園内 | |
| 3 河川 | 上長井・二河地内 2 か所 | |

簡易防火水槽

令和 6 年 4 月 1 日

設置年度	設置数	設置年度	設置数
昭和 61 年度	1 基	平成 5 年度	5 基
昭和 62 年度	5 基	平成 6 年度	5 基
昭和 63 年度	5 基	平成 7 年度	6 基 (うち 20 t 1 基)
平成 元年度	5 基	平成 8 年度	3 基
平成 2 年度	5 基	平成 9 年度	3 基
平成 3 年度	5 基	平成 10 年度	2 基
平成 4 年度	5 基	合 計	52 基



内容量：6 t 材質：F. R. P

本町において郊外や山間部の災害対応では、遠距離水利の使用を余儀なくされるため、消防力の基準内防火水槽の設置を進めるとともに、この簡易防火水槽を広範囲の無水利地区に設置することにより、火災防御における初期消火の重要性から、後着隊の充分期待できる地域には 1 基（6t）、無水利地区には連結 2 基（12t）を原則に設置している。

この防火水槽の特徴としては、製作費用が安価で、連結が可能であり、高位置に設置すれば地区住民による初期消火が可能とともに、防火意識の高揚につながることを期待している。

なお、平成 10 年度をもって事業を終了した。

那智山地区自然水貯水型消防水利施設

那智山地区は、高低差約 200 メートルの急傾斜地に位置し、重要文化財である神社や寺院、そして名瀑「那智の滝」を軸に開けた観光地で、参道に面して土産物店や飲食店等が立ち並んでいるが、上水道が引かれていない無水利地区であり、火災に際して消防水利の確保が永年の懸案事項であった。

そこで、高位置に「那智の滝」の自然水を水源とする 200 トン級防火水槽 1 基、低位置に 40 トン級防火水槽 2 基を配置し、この間を消火栓を取り付けた消火管で接続することによって地区全体の消防水利をカバーしている。これにより、消火栓による有圧放水及び防火水槽に部署した消防ポンプ自動車等による放水が可能となった。

なお、この事業は、平成 9 年度から平成 12 年度までの 4 か年にわたり、消防庁の「防災まちづくり事業」として採択を得て、実施したものである。

那智の歴史と文化を
火災から守る

那智山地区 自然水貯水型 消防水利施設

施設の概要

工 期	平成9年度～平成12年度	
施 設		
送水管布設	口径 100mm～150mm	
	延長 699m	
管種	鋼鉄管及び高性能ポリエチレン管	
消火管布設	口径 75mm～150mm	
	延長 757m	
管種	鋼鉄管及び高性能ポリエチレン管	
防火水槽	200t級 1基	
	40t級 2基	
消火栓	7基	
事業費	79,570千円	
財源内訳	配 債	74,700千円
	一般財源	4,870千円

(系統図)



消防相互応援協定

令和 6 年 4 月 1 日

名 称	締結年月日	協定先市町村名等	応 援 内 容
那智勝浦町・太地町 消 防 相 互 応 援 協 定	S61. 3. 31	太地町	火災 水害 救急 その他の災害
和 歌 山 県 防 災 ヘ リ コ プ タ ー 応 援 協 定	H8. 2. 22	和歌山県下市町村 一部消防事務組合	消防組織法第 1 条に規定する 水火災又は地震等の災害
和歌山県下消防広域 相 互 応 援 協 定	H8. 3. 1	和歌山県下市町村 一部消防事務組合	自然災害・火災・大規模又は 特殊な事故・上記以外の災害 で、応援を必要とする災害
紀南消防相互応援協定	H26. 7. 24	田辺市 白浜町 串本町 新宮市 熊野市	自然災害・火災・大規模又は 特殊な事故・消防業務遂行上 必要とする応援（調査及び検 査を含む。）

その他の協定

令和 6 年 4 月 1 日

名 称	締結年月日	協定先市町村名等	応 援 内 容
船舶消防等に関する業 務協定	H10. 8. 1	串本海上保安署	「海上保安庁の機関と消防機 関との業務協定の締結に関す る覚書」に基づき、串本海上保 安署と本町消防本部が船舶消 火活動に関して協定するとと もに救急救助活動についても 協力体制を確立し、相互の機能 を活用し海上における防災活 動の万全を期する。
高野小森川トンネルの 非常通報装置等の通報 等に関する協定	H17. 4. 1	古座川町・串本町	林道小匠小森川線の高野小森 川トンネル内の非常電話及び 非常通報装置の通報先並びに 出動体制の構築
医師等による救急活動 の実施に関する協定	H29. 3. 31	独立行政法人国立病 院機構南和歌山医療 センター	救急現場から傷病者を医療機 関等へ搬送するまでの間にお いて、傷病者が医師による医療 行為を必要とする状況となっ た場合、医師派遣用自動車（ド クターカー）により救急現場に 赴き活動する。

火災統計

令和 5 年度の火災発生件数は 10 件で、前年度と比較すると、2 件増加した。

建物火災は、4 件発生した。

火災による損害額は、18,331 千円で、前年度に比べ 15,387 千円増加した。

死傷者については、死者 0 人、負傷者 2 人となっている。

出火原因は、「焼却行為からの延焼」が 4 件、「こんろから出火」が 2 件、「屋内配線の短絡」が 1 件、「放火」が 1 件、「放火の疑い」が 1 件、「不明」が 1 件となっている。

火災概況及び前年度との比較

区分 \ 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	比較増減
火災件数	建物	4	4	
	林野			
	車輛	1		△1
	船舶			
	航空機			
	その他	3	6	3
	計	8	10	2
損害額（千円）		2,944	18,331	15,387
焼損棟数	全焼		2	2
	半焼		1	1
	部分焼		1	1
	ぼや	4	3	△1
	計	4	7	3
焼損面積	建物（㎡）		307	307
	林野（a）			
人的被害	死者			
	負傷者	2	2	
り災世帯数		3	6	3
り災人員（人）		6	6	
火災 1 件当り損害額（千円）		368	1,833.1	1,465.1
住民 1 人当り損害額（千円）		0.2	1.3	1.1
住民 1 世帯当り損害額（千円）		0.4	2.5	2.1
火災発生間隔（日）		46	37	△9

過去 5 年間の月別火災発生状況

令和 6 年 3 月 31 日

月 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
令和元年度			1			1	1				3		6
令和 2 年度	1	1						1		2	1		6
令和 3 年度				1					1	1		1	4
令和 4 年度	1				1		1				2	3	8
令和 5 年度				1			3		2	3	1		10
計	2	1	1	2	1	1	5	1	3	6	7	4	34

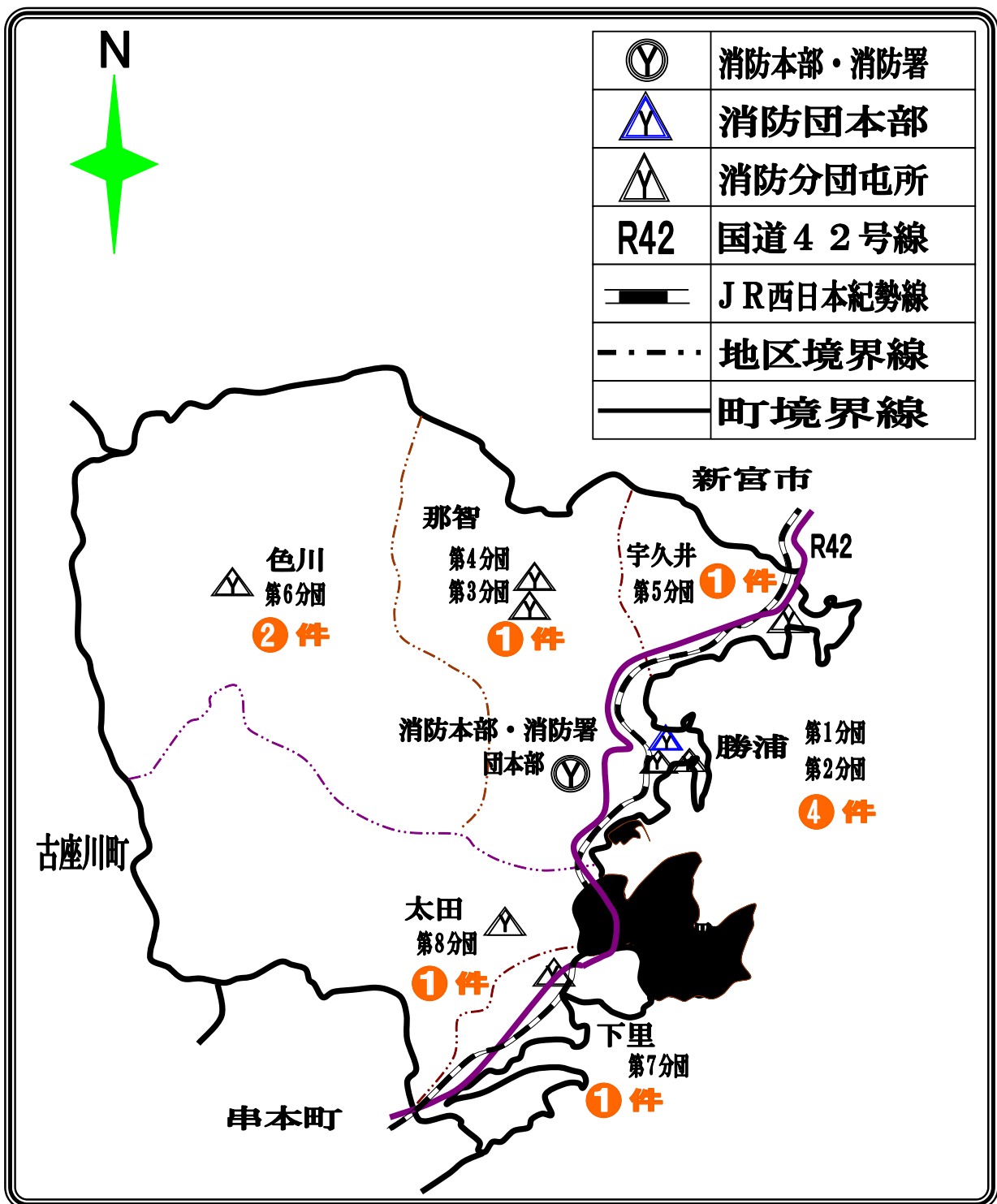
令和 5 年度火災発生状況

No.	発生 月日	出火 時間	曜日	火災 種別	覚知 方法	出火 場所	出火 原因	損害 額 (千円)	死者	負傷 者	(㎡) 建物 焼損 面積	焼損 面積 (㎡)	(㎡) 焼損 表面積 等	全 損	半 損	小 損	罹 災 世 帯	罹 災 人 員	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	焼 損 棟 数
1	7/14	18 : 40	金	その他	事後聞知	宇久井	不明	0															
2	10/7	14 : 00	土	その他	119	南平野	焼却行為からの 延焼	0				2,634											
3	10/7	15 : 30	土	その他	119	庄	焼却行為から の延焼	0				317											
4	10/19	16 : 40	木	建物	119	朝日	放火	3		1			1			1	1	1				1	1
5	12/1	13 : 32	金	建物	119	勝浦	屋内配線の短絡	10,038			123					1	1	1	2				2
6	12/29	10 : 45	金	その他	119	下里	焼却行為から の延焼	0				525											
7	1/8	10 : 08	月	建物	119	朝日	こんろから 出火	8,202		1	183			3			3	3		1		1	2
8	1/11	13 : 00	木	その他	119	橋ノ川	焼却行為から の延焼	1				879											
9	1/29	18 : 15	月	建物	119	勝浦	こんろから 出火	38			1					1	1	1			1		1
10	2/6	13 : 20	火	その他	119	大野	放火の疑い	49					2									1	1
計								18,331		2	307	4,355	3	3		2	6	6	2	1	1	3	7

令和 5 年度月別火災発生状況

項目 月別	地区別					出火時間別																								火元用途別						覚知別					曜日別																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	宇久井	那智	色川	勝浦	太田	下里	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	不明	建　　物				林野	車輛	船舶	その他	119	加入電話	駆付け	事後 通知	その他	日	月	火	水	木	金	土	不明																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
							〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃																		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	

地区別火災発生状況



救急統計

本町の令和5年度の救急出場件数は1,096件で、前年度と比較して20件の増加となっており、事故種別を前年度と比較すると、一般負傷が26件、自損行為が10件、交通が5件、水難及び加害が2件、火災が1件の増加となっている。また、労働災害及びその他は変動がなく、急病が14件、転院搬送が10件、運動競技が2件の減少となっている。

次に、本町において令和5年度に救急自動車によって搬送された人員は1,020人で、前年度と比較して16人増加している。事故種別の搬送人員数は、急病が639人と半数以上を占め、次いで、一般負傷が168人、転院搬送が144人、交通が40人、自損行為が16人、労働災害が11人、火災及び水難が1人の順となっている。搬送人員についても救急出場件数と同様に増加している。

本町の1日当たりの平均救急搬送人員は約2.8人で、町民の13人に1人（前年度13人に1人）が救急隊によって搬送されたことになる。

これに対し、令和5年版消防白書によると、全国では令和4年中に国民の20人に1人（前年23人に1人）が救急隊によって搬送されており、住民に対する救急搬送率は、本町の方が高い数値を示している。

搬送された人員の傷病程度は、軽症が49.5%と多く、次いで中等症が36.5%、重症が11.5%、死亡が2.5%の順となっている。



過去 5 年間の救急出場件数

	令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		平均	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
急病	643	61	536	64	605	64	701	65	687	63	634	64
交通	41	4	35	4	39	4	38	3	43	4	39	4
一般負傷	165	16	134	16	155	16	156	14	182	17	158	16
転院搬送	163	16	112	13	113	12	154	14	144	13	137	13
その他	34	3	21	3	32	3	27	3	40	4	31	3
計	1,046	100	838	100	944	100	1,076	100	1,096	100	999	100

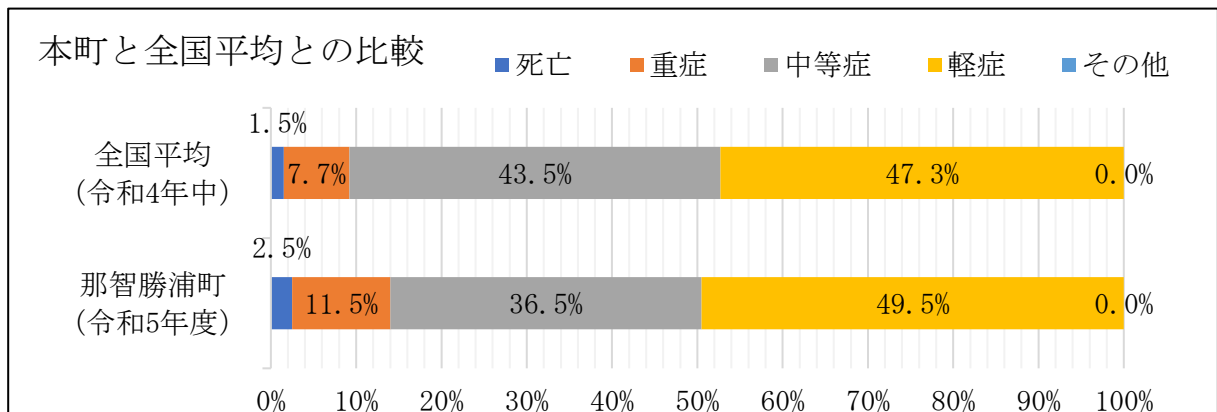
※ 小数点第一位四捨五入のため、合計等が一致しない場合がある。

過去 5 年間の救急搬送人員

	令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		平均	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	件	%
急病	599	61	501	63	569	64	636	63	639	63	589	63
交通	42	4	36	5	37	4	44	4	40	4	40	4
一般負傷	151	15	129	16	145	16	149	15	168	16	148	16
転院搬送	163	17	112	14	112	13	153	15	144	14	137	15
その他	24	2	15	2	22	2	22	2	29	3	22	2
計	979	100	793	100	885	100	1,004	100	1,020	100	936	100

※ 小数点第一位四捨五入のため、合計等が一致しない場合がある。

傷病程度別搬送割合



区 分	那智勝浦町 (令和 5 年度)	全国平均 (令和 4 年中)
死 亡	2.5%	1.5%
重 症	11.5%	7.7%
中 等 症	36.5%	43.5%
軽 症	49.5%	47.3%
そ の 他	0.0%	0.0%

※ 小数点第二位四捨五入のため、合計等が一致しない場合がある。

事故種別医療機関別搬送状況

(単位:人)

事故種別		急病		交通		一般負傷		その他		計	
告示別等	開設主体別		管外		管外		管外		管外		管外
救急告示医療機関	国 立	1	1					8	8	9	9
	公 立	627	141	40	16	166	25	165	137	998	319
	公 的										
	私 的	病 院									
		診療所									
	計	628	142	40	16	166	25	173	145	1,007	328
その他の医療機関	国 立										
	公 立										
	公 的										
	私 的	病 院	2	2						2	2
		診療所	9	2		2	1			11	3
	計	11	4			2	1			13	5
計	国 立	1	1					8	8	9	9
	公 立	627	141	40	16	166	25	165	137	998	319
	公 的										
	私 的	病 院	2	2						2	2
		診療所	9	2		2	1			11	3
	計	639	146	40	16	168	26	173	145	1,020	333
のそ 場の 所他	接骨院等										
	その他										
	計										
合 計		639	146	40	16	168	26	173	145	1,020	333

診療科目別医療機関搬送状況

(単位:人)

医療機関名		診療科目							計
		内科	外科	整形	脳外	産婦	小児	その他	
管内	町立温泉病院	490		189					679
	木下医院	7		1					8
	その他								
管外	新宮市立医療センター	104	18	42	58		19	51	292
	紀南病院（田辺市）	4	1					5	10
	南和歌山医療センター	1						8	9
	和歌山県立医大附属病院	5	2	3				1	11
	紀南病院組合（三重）	1							1
	その他	7		1			1	1	10
合 計		619	21	236	58		20	66	1,020

搬送医療機関別搬送割合

(単位:%)

医療機関名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
那智勝浦町立温泉病院	58.7	63.6	60.1	67.9	66.6
木下医院	1.6	1.3	2.6	0.8	0.8
管内その他	0.1	0	0	0.4	0
新宮市立医療センター	37.0	31.9	33.9	26.2	28.6
和歌山県立医大附属病院	0.4	1.0	0.5	0.4	1.1
南和歌山医療センター	0.4	1.3	0.3	1.7	0.9
管外その他	1.7	1.0	2.1	1.1	2.1

※ 小数点第二位四捨五入のため、合計等が一致しない場合がある。

現場到着所要時間別出場状況(覚知～現場到着)

(単位:件)

現場到着 事故種別	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	計	最短 所要時間 (分)	最長 現場到着 時間(分)	平均 現場到着 時間(分)
急病	1	114	282	279	11	687	2	78	9.1
交通		11	22	9	1	43	3	21	7.9
一般負傷	2	28	71	71	10	182	1	56	10.0
その他	6	117	37	23	1	184	0	37	5.3
合計	9	270	412	382	23	1,096	0	78	8.6

収容所要時間別搬送状況(覚知～病院収容)

(単位:人)

現場到着 事故種別	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上	計	最短 時間(分)	最長 収容所要 時間(分)	平均 収容所要 時間(分)
急病		19	133	407	77	3	639	11	161	42.2
(管外)			13	94	36	3	146			
交通		3	10	25	2		40	17	73	37.2
(管外)				15	1		16			
一般負傷		8	36	107	16	1	168	13	130	40.5
(管外)				21	5		26			
その他		4	85	54	18	12	173	13	175	46.1
(管外)			76	41	16	12	145			
合計		34	264	593	113	16	1,020	11	175	42.4
(管外)			89	171	58	15	333			

転送に係る収容所要時間別搬送状況

(単位:人)

現場到着 自己種別	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上	計
急病					3		3
(管外)					2		2
交通							
(管外)							
一般負傷					1		1
(管外)					1		1
その他							
(管外)							
合計					4		4
(管外)					3		3

医療情報提供件数調

情報種別	件数
医療機関等の案内	10
応急処置の方法・知識等の指導	73
救急自動車の利用方法の指導	656
計	739

曜日別搬送状況

(単位:人)

曜日 事故種別	日	月	火	水	木	金	土	計
急病	100	99	84	88	74	94	100	639
交通	3	3	6	8	8	7	5	40
一般負傷	23	29	18	23	21	26	28	168
その他	11	25	24	39	32	28	14	173
合計	137	156	132	158	135	155	147	1,020

宿泊施設からの要請による搬送状況

出場状況 事故種別	出場件数／全体	搬送人員／全体	不搬送件数／全体
急病	22 / 687	21 / 639	1 / 48
交通	1 / 43	1 / 40	0 / 3
一般負傷	6 / 182	6 / 168	0 / 14
その他	0 / 184	0 / 173	0 / 11
計	29 / 1,096	28 / 1,020	1 / 76

事故種別転送回数別搬送人員調

事故種別 転送回数	急 病		交 通		一般負傷		その他		計	
		応急処置のみ		応急処置のみ		応急処置のみ		応急処置のみ		応急処置のみ
0 回	636		40		167		173		1,016	
1 回	3				1				4	
2 回										
3 回										
4 回										
5 回										
5 回以上										
合 計	639		40		168		173		1,020	

傷病程度別転送回数別搬送人員調

傷病程度 転送回数	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回以上	計
死 亡	26						26
重 症	117						117
中 等 症	369	3					372
軽 症	504	1					505
そ の 他							
合 計	1,016	4					1,020

特定行為実施状況

項 目		令和 4 年度	令和 5 年度	比較
特定行為実施対象者		28 人	25 人	3 人減
特定行為	気道確保	20 例	21 例	1 例増
	気管挿管	0 例	1 例	1 例増
	除細動	2 例	0 例	2 例減
	静脈路確保（CPA 後）	7 例	11 例	4 例増
	静脈路確保（CPA 前）	4 例	1 例	3 例減
	静脈路確保（ブドウ糖与）	2 例	2 例	増減なし
	薬剤投与	5 例	7 例	2 例増
	ブドウ糖投与	2 例	2 例	増減なし
	血糖測定	56 例	54 例	2 例減

救急隊の行った応急処置件数

項目 \ 疾病程度	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
応急処置対象人員	26	117	372	504		1,019
止血			4	9		13
固定	2	5	14	29		50
人工呼吸	1	3		1		5
胸骨圧迫						
うち自動						
心肺蘇生	23	2	1			26
うち自動	11					11
酸素吸入	26	48	98	26		198
気道確保	24	7	13	3		47
※1		2	6			8
※2	2					2
※3	19	2				21
※4	1					1
保温	22	109	337	423		891
被覆		2	6	50		58
在宅療法継続		2	9	2		13
※A						
※B						
※C		2	9	2		13
ショックパンツによる血圧保持						
除細動						
静脈路確保（輸液）	9	2	1	2		14
静脈路確保（ブドウ糖投与）				2		2
静脈路確保（CPA 前）			1			1
静脈路確保（CPA 後）	9	2				11
薬剤投与	5	2				7
ブドウ糖投与				2		2
血糖測定		15	20	19		54
その他の応急処置	3	109	371	501		984
血圧測定	4	117	371	497		989
聴診器による心音・呼吸音等の聴取	26	67	233	330		656
血中酸素飽和度の測定	4	116	372	503		995
心電図	25	79	251	353		708
うち伝送						
合 計	183	687	2,102	2,752		5,724

※1 経鼻エアウェイを使用しての気道確保

※2 喉頭鏡・鉗子等による異物除去

※3 ラリングマスク等を使用しての気道確保

※4 気管チューブによる気道確保

※A 在宅中心静脈栄養管理・在宅化学療法等により点滴処置が施されているもの

※B 気管切開孔又は気管瘻、人工肛門等の外瘻処置が施されているもの

※C ※A、※B 以外の処置が施されているもの

救急救命士が行う特定行為

診療科目別医療機関案内状況

診療科目	内科	小児科	外科	脳神経外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	耳鼻咽喉科	眼科	循環器科	消化器科	呼吸器科	心血管外科	神経内科	歯科	精神科	その他	合計
案内件数	5	1			4														10

ヘリコプターによる搬送状況

年 月 日	事故種別	性別	年齢	搬 送 先	備 考
令和5年7月21日	急病	男	88	新宮市立医療センター	ドクターヘリコプター
令和5年8月17日	労働災害	男	44	国立病院機構 南和歌山医療センター	ドクターヘリコプター
令和6年1月3日	転院搬送	女	83	和歌山県立医科大学 附属病院	ドクターヘリコプター
令和6年1月14日	交通	男	83	国立病院機構 南和歌山医療センター	ドクターヘリコプター
令和6年2月8日	転院搬送	女	91	和歌山県立医科大学 附属病院	ドクターヘリコプター



階級別救急資格取得状況調

令和 6 年 4 月 1 日

資格 \ 年齢	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士 防長	消防副士長	消防士	計
救急救命士	1 人	2 人	9 人	4 人	1 人	2 人	19 人
標準課程修了		3 人	2 人	3 人	6 人	3 人	17 人
Ⅱ 課程修了		4 人					4 人
Ⅰ 課程修了							
資格なし							
合 計	1 人	9 人	11 人	7 人	7 人	5 人	40 人

年齢別救急資格取得状況調

令和 6 年 4 月 1 日

資格 \ 年齢	50 歳以上	40 歳以上 50 歳未満	30 歳以上 40 歳未満	30 歳未満	計
救急救命士	3 人	8 人	5 人	3 人	19 人
標準課程修了		4 人	4 人	9 人	17 人
Ⅱ 課程修了	4 人				4 人
Ⅰ 課程修了					
資格なし					
合 計	7 人	12 人	9 人	12 人	40 人

- 救急救命士 救急救命士法により、救急救命士国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けた者
- 標準課程修了者 消防学校の教育訓練の基準別表第二に定める課程（250 時間以上）を修了した者
- 救急Ⅱ課程修了者 消防法施行規則第 50 条に定める講習の課程を修了した者及び同令 51 条の規定により救急業務に関する講習の課程を修了した者と同等以上の学識経験を有すると認定された者に対して、消防学校の教育訓練の基準別表第二に定める課程（115 時間以上）を修了した者
- 救急Ⅰ課程修了者 消防法施行規則第 50 条に定める講習の課程（135 時間以上）を修了した者及び同令 51 条の規定により救急業務に関する講習の課程を修了した者と同等以上の学識経験を有すると認定された者

救助統計

消防機関の行う人命の救助とは、火災・交通事故・水難事故・自然災害や機械による事故等から、人力や機械力等を用いて、その危険を排除し、安全な場所に救助する活動をいう。

令和5年度における本町の救助出動の実施状況は、救助出動件数5件（前年度6件）、救助人員4人（前年度5人）である。

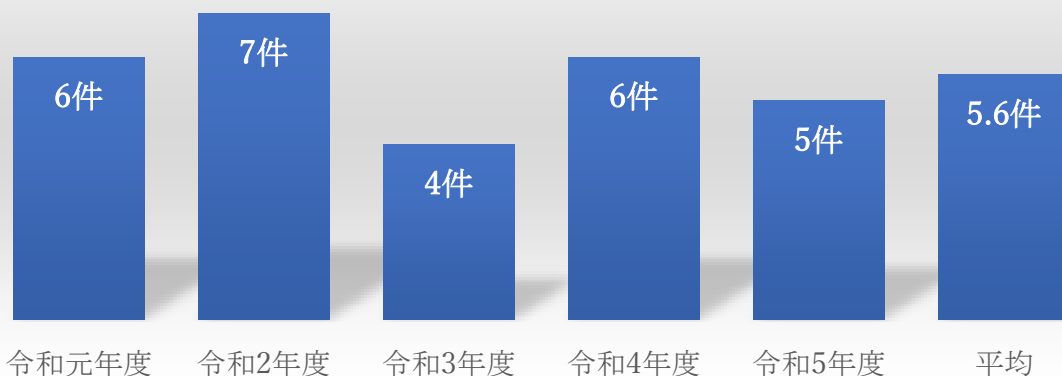
次に、救助出動人員（救助出動した全ての消防職員をいう。）は、延べ43人（前年度49人）であり、救助出動1件当たり8.6人（前年度8.2人）が従事している。

また、事故種別ごとの出動人員は、水難事故2件で19人、交通事故2件で18人、ガス酸欠1件で6人の順となっている。

令和5年度の事故種別・地区別救助出動状況 （下段：前年度）

事故種別	地区別出動件数								出動車両台数	出動人員	救助人員
	勝浦	那智	宇久井	色川	下里	太田	その他	計			
火災											
交通事故		1 (1)				1		2 (1)	5 (3)	18 (7)	
水難事故	1 (1)		1					2 (1)	8 (2)	19 (6)	1 (2)
自然災害											
機械による事故											
建物等による事故											
ガス及び酸欠事故			1					1	2	6	
破裂事故											
その他	(1)	(1)	(1)	(1)				(4)	(14)	(36)	(3)
計	1 (2)	1 (2)	2 (1)	(1)		1		5 (6)	15 (19)	43 (49)	1 (5)

過去5年間の救助出動件数



救助活動の範囲

調査に当たって対象とした救助活動は、次のいずれにも該当するものである。

- 1 火災・災害又は事故により発生したものであること。
- 2 要救護者の存在が予想され、しかも、その生命又は身体に現実の危険が及んでいるものであること。
- 3 緊急に被害者を人力・機械力、器具等を用いて安全な場所に救出する必要があるものであること。
- 4 消防機関が行ったものであること（救助隊未設置の消防機関が行ったものも含む。）。また、この調査では次のような取扱いをしている。
 - (1) 直接人命救助を伴わない警戒活動・危険物排除活動等及び死体捜索は、調査対象から除外している。
 - (2) 「火災」の場合における「救助出動件数」は、出動件数そのものではなく、出動して実際に救助活動を実施した場合のみ救助出動件数として計上している。すなわち、救助出動件数と救助活動件数は同数となっている。また、火災時に救助隊員の誘導については「救助出動件数」及び「救助活動件数」に含めている。

事故種別の区分

- 1 「火災」 火災現場において、直接火災に起因して生じた事故をいう。
- 2 「交通事故」 全ての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故若しくは歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故をいう。
- 3 「水難事故」 水泳中の溺者又は水中転落による事故をいう。
- 4 「自然災害」 暴風・豪雨・豪雪・洪水・高潮・津波・噴火・雪崩・地滑りその他の異常な自然現象に起因する災害による事故をいう。
- 5 「機械による事故」 エレベーター・プレス機械・ベルトコンベアーその他の建設機械・工作機械等による事故をいう。
- 6 「建物等による事故」 建物・門・棚・塀等の建物に付帯する施設又はこれらに類する工作物の倒壊による事故・建物等内に閉じこめられる事故・建物等に挟まれる事故等をいう。
- 7 「ガス及び酸欠事故」 一酸化炭素中毒その他のガス中毒事故及び酸素欠乏による事故等をいう。
- 8 「破裂事故」 火災以外のボイラー・ボンベ等の物理的破裂による事故等をいう。
- 9 「その他」 1 から 8 に掲げる事故以外の事故等で、消防機関による救助を必要とした事故をいう。

他機関との合同訓練実施状況

令和5年度

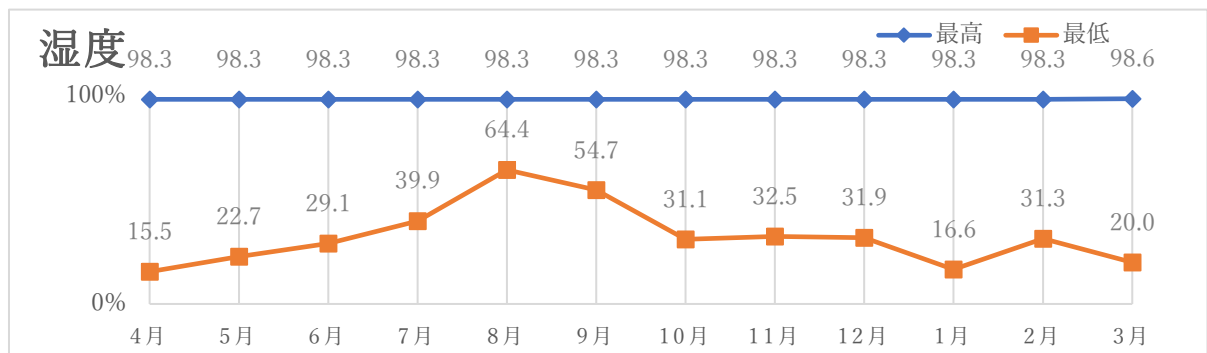
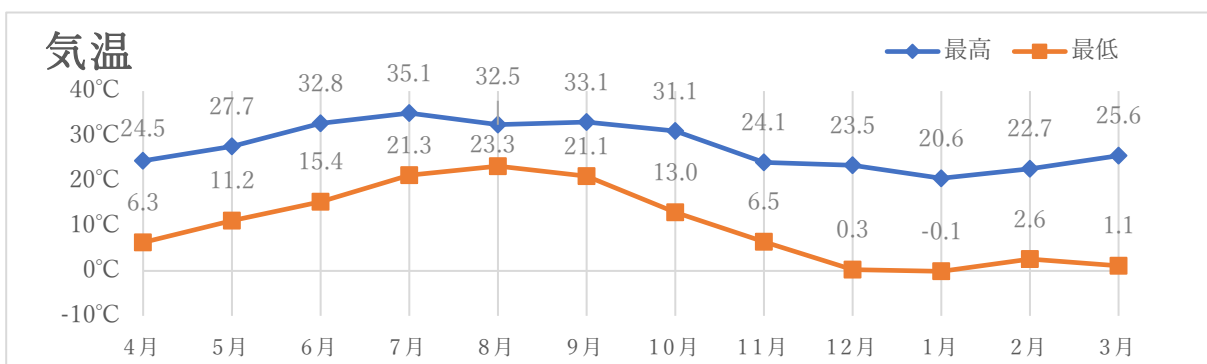
日時	訓練名称	実施場所	参加機関
7月27日	潜水合同訓練	串本町	串本町消防本部ほか
11月3日	緊急消防援助隊和歌山県隊（紀南ブロック）訓練	和歌山市	県内消防本部ほか
11月23日	大規模災害対応訓練（トリアージ）	那智勝浦町立温泉病院	近隣病院ほか
1月26日	文化財防火デー	那智山地区	那智大社 青岸渡寺
2月22日	警防技術情報交換会（FFD）	田辺市消防本部	田辺市消防本部ほか

気象統計

令和5年度 気象警報・注意報・情報

警報			注意報			情報		
大雨特別		回	大雨	20	回	河川氾濫		回
大雪特別		回	洪水	9	回	土砂災害警戒	3	回
暴風特別		回	大雪		回	台風	20	回
暴風雪特別		回	強風	74	回	大雨	44	回
波浪特別		回	風雪	1	回	強風	11	回
高潮特別		回	波浪	53	回	暴風		回
大津波		回	高潮	16	回	雷、落雷	81	回
大雨	2	回	雷	86	回	高波	13	回
洪水	2	回	濃霧	4	回	潮位	3	回
大雪		回	乾燥	18	回	大雪	11	回
暴風	1	回	なだれ		回	突風	80	回
暴風雪		回	着氷		回	竜巻	25	回
波浪	1	回	着雪		回	地震		回
高潮	1	回	融雪		回	津波		回
津波		回	霜	20	回	降ひょう	24	回
		回	低温		回	黄砂	5	回
			津波	1	回	雪	1	回

令和5年度 気温・湿度グラフ (測定場所 消防庁舎屋上)

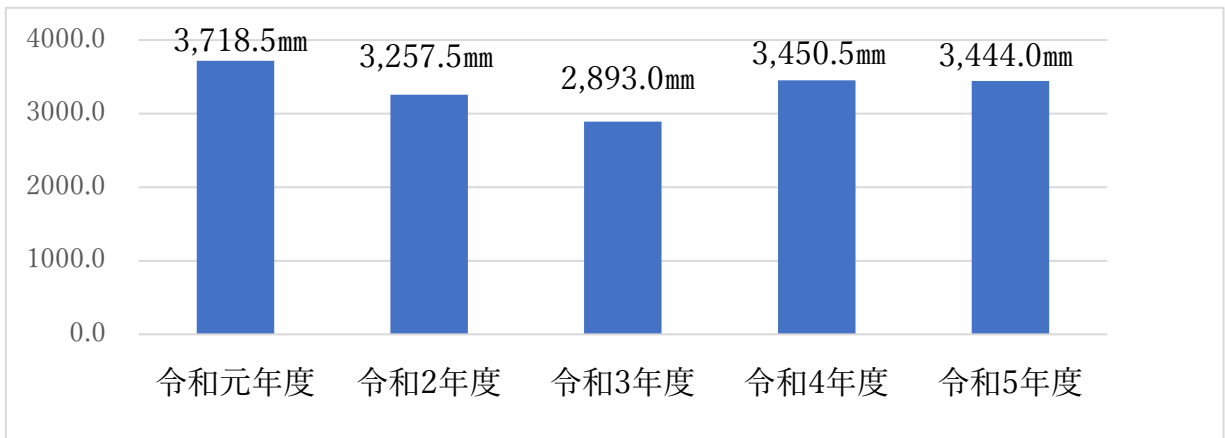


過去5年間の月別降雨量

(測定場所 消防庁舎屋上)
(単位：ミリ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R元年度	292.5	223.0	328.5	767.5	257.0	266.5	763.5	57.0	48.0	246.0	153.0	216.0	3,718.5
R2年度	233.5	166.0	424.0	648.5	55.0	546.0	507.5	71.5	32.5	113.0	170.0	290.0	3,257.5
R3年度	290.5	440.5	266.0	336.5	407.5	515.5	166.5	138.0	105.5	48.0	30.5	148.0	2,893.0
R4年度	361.5	314.0	429.0	572.0	244.5	663.0	254.5	280.5	31.0	71.5	35.0	194.0	3,450.5
R5年度	267.0	354.0	549.5	97.5	559.5	300.0	169.5	138.0	118.0	172.5	278.5	440.0	3,444.0

*令和4年3月7日から3月24日までの間、新指令室工事に伴い降雨量欠測箇所あり



過去5年間の月別降雨日数

(単位：日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R元年度	9	11	16	20	16	15	13	8	7	11	7	13	146
R2年度	5	13	16	20	7	20	9	7	4	7	5	12	125
R3年度	12	16	11	10	17	19	10	5	8	4	6	4	122
R4年度	12	16	11	15	14	22	9	8	7	8	6	11	139
R5年度	10	13	16	6	23	15	6	7	10	6	15	12	139

*令和4年3月7日から3月24日までの間、新指令室工事に伴う降雨量欠測のため降雨日数未計上

